



# みどり



## 140号 『高齢者のてんかん』

2019年11月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1  
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

「てんかん」は子供の病気であるというイメージをお持ちの方が多いと思いますが、成人、特に高齢者（ここでは65歳以上）に新たに発症するてんかんが近年注目されています。

### 「てんかん」とは

「てんかん」は表1のように定義されます。

表1. てんかんの定義

- ・てんかん性発作を引き起こす持続性素因を特徴とする脳の障害である。すなわち、慢性の脳の病気で、大脳の神経細胞が過剰に興奮するために、脳の発作性の症状が反復性に起こる。
- ・発作は突然に起こり、普通とは異なる身体症状や意識、運動および感覚の変化などが生じる。明らかでないければ、てんかんの可能性が高い。

「てんかん治療ガイドライン2018」日本精神神経学会

重要な点は、てんかんが1) 慢性の病態であること、2) 発作は反復すること、3) 通常は発作がほぼ唯一の主症状であること、4) その発生機構が、大脳の神経細胞の過剰な活動であること、です。

\* \* \*

てんかんの発作とは上述したように、なんらかの原因より、大脳の神経細胞が過剰に興奮して引き起こされる症状です。脳の一部分が興奮して起こる「焦点（部分）発作」と、脳の大部

分または全体が興奮して起こる「全般発作」に大別されます。

### 「高齢者のてんかん」とは

高齢者のてんかんには、過去に発症したてんかんが継続している場合と、高齢になって新たに発症した「高齢発症てんかん」の2つがありますが、ここでは65歳以上になって発症した「高齢発症てんかん」を説明します。

\* \* \*

てんかんの有病率は1000人に5~10人(0.5~1.0%)と、頻度の高い神経疾患です。従来てんかんは小児に多い疾患であると認識されてきました。しかし近年の欧米での調査によると、人口10万人あたりの発病頻度は70歳以上では100人以上、80歳以上になると150人以上でした。70歳以上では10歳以下の小児よりも発病する頻度が高いということになります。

### 高齢発症てんかんの原因

高齢者のてんかんの原因の約50%は、脳卒中、アルツハイマー病などの神経変性疾患、頭部外傷や脳腫瘍などです。これらにより脳の一部に傷が付き、正常な機能が障害されると考えられます。一方で原因が特定できない場合が25~40%あります。

### 高齢発症てんかんの特徴

高齢発症てんかんの多くは、上述したような

器質的原因により脳の一部が障害を受けることにより「部分発作」が引き起こされます。“てんかんの発作”と聞くと、けいれんを伴う発作を思い浮かべる方が多いと思います。しかし部分発作はけいれんがないことが特徴であり、発作が見逃される一因でもあります。

部分発作の症状は多岐に渡りますが、高齢者では「複雑部分発作」(表2)が多く見られます。

表2. 複雑部分発作の特徴

- ・自動症：口をもぐもぐする、同じ動作を繰り返す、など
- ・動作の停止：一点凝視したまま反応が低下
- ・発作後：もうろうとした状態が数時間～数日続くことがある

複雑部分発作は意識障害を伴います。つまり発作中は本人の記憶がありません。しかし発作中に倒れることは通常ないため、周囲の人に気づかれないことがしばしばあります。例えば、1~2分間の意識障害と口をもぐもぐするような発作のあった場合、発作が終わった後、当人には発作時の記憶がないため話がかみ合わず、周囲から認知症などの疾患と間違えられることも珍しくありません。

\* \* \*

発作の持続時間は通常数秒から数分以内です。毎回の発作の症候は各々の患者さんごとでほぼ同一のパターンを呈します。

### 高齢発症てんかんの診断

高齢発症てんかんの診断も、ほかの年代に発症したてんかんと同じです。問診、脳波、画像診断、血液検査などにより行われます。

#### 1) 問診

発作に関する情報はてんかんの診断で最も重要と言えます。患者さん本人は発作時の記憶がないことほとんどですから、発作を目撃した方からの情報が有用です。可能であれば、携帯電

話等の動画撮影媒体で発作時の様子を記録し、医師に提供すると診断に非常に役立ちます。

既往歴や薬剤服用歴（お薬手帳）も重要です。

#### 2) 脳波検査

脳の神経細胞の電気活動を頭皮上から記録する検査が脳波検査です。発作がおきていない時も正常とは異なる電気活動がみられることがあり、診断に必須の検査です。しかし一回の検査で異常波が検出される確率は約50%と必ずしも高くないため、異常がないからといっててんかみを否定することはできません。

#### 3) 画像診断

てんかんの原因の検索に有用です。

### 高齢発症てんかんの治療

一般的なたんかんと同様に抗てんかん薬の内服により治療されます。高齢発症てんかんでは抗てんかん薬による治療効果は良好で、発作抑制率は約90%です。

一方で、薬剤の副作用の発現に細心の注意を払う必要があります。薬の代謝に重要な役割を果たす肝臓や腎臓の機能は、加齢により低下します。そのため薬剤の作用が強くなってしまいます。また心疾患や腫瘍性疾患などを合併している例が多いため、それらの治療薬と抗てんかん薬との飲み合わせ（相互作用）で副作用が出やすくなることがあります。医師に内服中の薬をお薬手帳等で正確に伝えることが肝要です。基本的なことではありますが、飲み忘れのないよう、内服管理も重要となります。

### 日常生活の留意点

入浴中に発作が起きると危険なため湯量を少なめにする等の注意が必要です。また、てんかんのある方の運転は条件と制限があります。2年以内に発作の既往があると原則運転はできません。免許の更新時には毎回医師の診断書が必要となります。（文責：金子 由夏）